



鴻巣西中通信

学 校 だ よ り

鴻巣市立鴻巣西中学校
鴻巣市大間1161番地
令和3年5月6日

第2号

「静」で始まり「静」で終わる一日 ～「朝の読書」と「帰りの視写」で～

校 長 服部幸司



左は、1年3組の朝読書の様子です。毎朝、登校後8:20に各教室を訪れると、1年生から3年生まで全校生徒が真剣に本を読んでいます。正に、「静」で始まる西中の朝です。

下は令和3年5月3日(月)の埼玉新聞コラム「さきたま抄」の冒頭部分です。▼～▼までの部分は、私がひらがなに直したもの(句読点、「」等省き、「勃発」だけ漢字)ですが、スラスラと漢字かな交じり文に直せるでしょうか。→答えは矢印の下です

1の3朝読書の様子(令和3年4月30日(金)朝)

本校では昨年度から『コラム視写』に全校で取り組んでいます。(火)～(木)の帰りの会始まりの5分間です。

新聞のコラムは、決められた字数でタイムリーな話題が的確に無駄なく表現されています。しかも、読者に対する記者の「静かでありながらも熱い思い」が語られ、生徒の人格形成にも資するものも多くあります。

「日本国民は正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、(中略)ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する」。今日は憲法記念日。学校で憲法の前文を覚えた人も少なくないだろう。▼れきしにいふはないがもしいへいようせんそうが勃発せずはいせんによつてにほんこくけんぽうがたんじようしなかつたらげんたいはどうなつていただろうか▼ 続く

■新聞のコラムは、決められた字数でタイムリーな話題が、的確に無駄なく表現されています。

「日本国民は正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、(中略)ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する」。今日は憲法記念日。学校で憲法の前文を覚えた人も少なくないだろう。▼歴史に「イフ」はないが、もし太平洋戦争が勃発せず、敗戦によって日本国憲法が誕生しなかったら、現代はどうなっていただろうか。▼まず、大日本帝国憲法がそのまま続く。第1条の「万世一系ノ天皇之ヲ統治ス」は不変で、国民主権の文言はない。首相の指名も元老たちの推薦で決められ、国会での投票で決まることはないだろう。▼平和主義もない。旧陸海軍は存続し、天皇に直属する機関として、文民統制もない。暴走したら現在のミャンマーのような軍事政権になっているかもしれない。▼基本的人権は、時代とともに個別に権利が認められるだろうが、生まれ持った不可侵なものではなく、法律の範囲以内という制限がかかる。治安維持法の下、言論の自由などが保証されるかは怪しい。これらを踏まえると、中国のような強権国家になつていないのではないだろうか。▼コロナ禍以前の日常のように、当たり前、普通と思つていたことは、失つて初めてかけがえのないものと思ふ。民主主義や平和、自由、人権も普段は空気のように意識しないが、今日くらいは憲法が保証することの意義を、「イフ」を通じて考えたい。

本校は今年度も、朝の読書と帰りのコラム視写で、「静」で始まり「静」で終わる一日一日を実現し、学力向上を目指し、上のようなコラムをひたすら視写します。